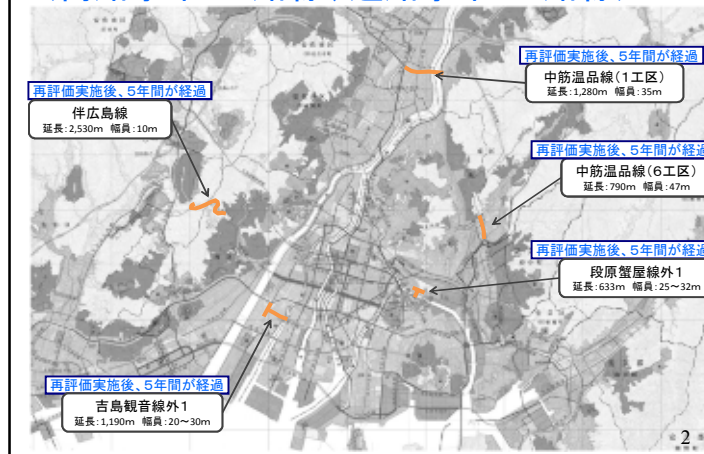


平成26年度 第1回
 広島市公共事業再評価審議会
 説明資料

平成26年11月18日
 広島市道路交通局道路部街路課
 // 道路課

今回の再評価対象事業
 (街路事業 4路線、道路事業 1路線)



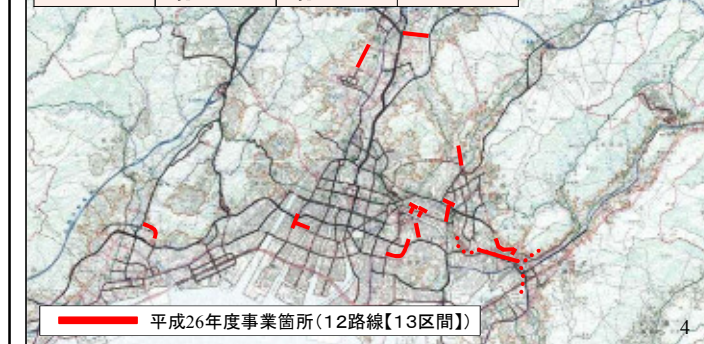
街路事業

- ・広島市の街路事業の概況
- ・評価結果の説明資料(路線ごと)

広島市の街路事業の概況

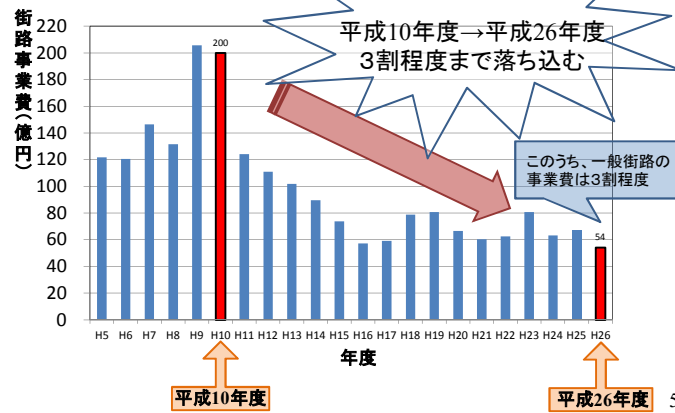
(1) 都市計画道路の整備状況等

都市計画道路の整備状況			
路線数	計画延長	整備済延長	整備率
145	約414km	約311km	75. 2%



広島市の街路事業の概況

(2) 街路事業の予算の推移



街路事業

中筋温品線(1工区)

(道路交通局道路部街路課)

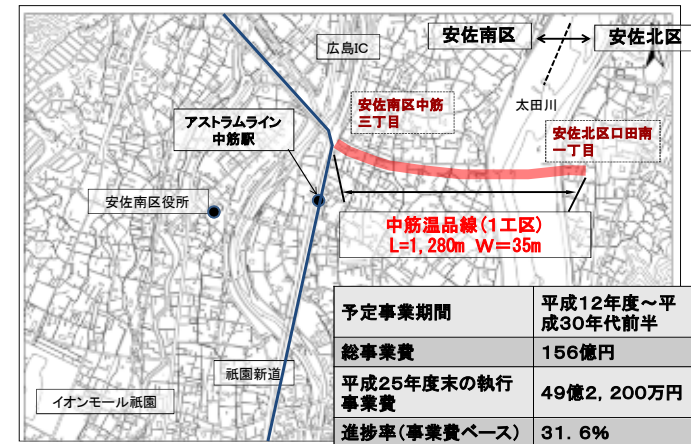
■事業の概要

上空から見た中筋温品線及び1工区の位置

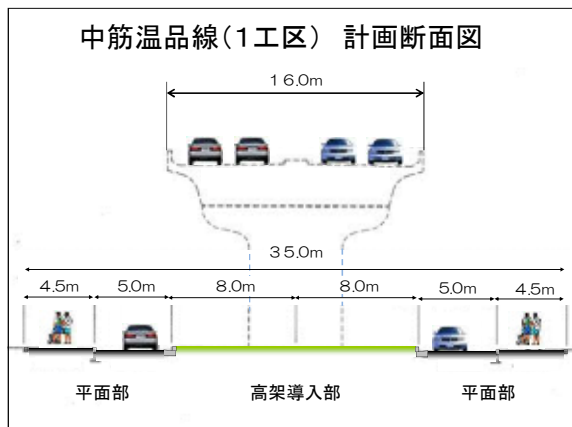


7

■事業の概要



■事業の概要



9

■再評価の視点

10

① 事業を巡る社会情勢等の変化

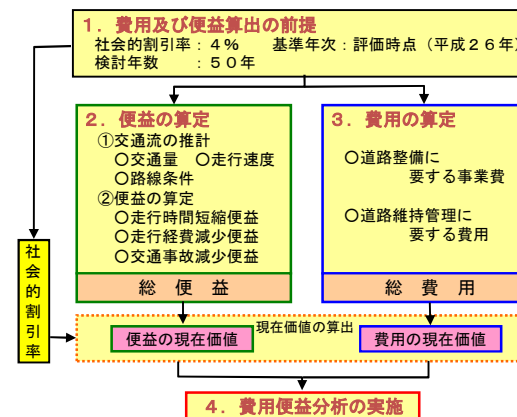
【地域情勢の変化】

- ・幅員の狭い生活道路中心の地区
- ・橋りょう整備により太田川の兩岸地区を連絡

地区住民から継続的な早期整備の要望

11

② 事業の投資効果 費用対効果分析のフロー



〔「費用便益分析マニュアル」（国土交通省 道路局 都市・地域整備局 平成20年11月）より作成〕

12

② 事業の投資効果 費用対効果分析の結果

■事業全体 費用便益比(B/C)

$$\text{総便益 B } 245.1\text{億円} \div \text{総費用 C } 182.0\text{億円} = \text{費用便益比 } \mathbf{B/C } 1.3$$

■残事業 費用便益比(B/C)

$$\text{総便益 B } 245.1\text{億円} \div \text{総費用 C } 122.4\text{億円} = \text{費用便益比 } \mathbf{B/C } 2.0$$

■感度分析(残事業に対して、各要因を変動させ分析)

- ・交通量変動 B/C=2.1(+10%)~1.7(-10%)
- ・事業費変動 B/C=1.8(+10%)~2.2(-10%)
- ・事業期間変動 B/C=1.7(+20%)~2.1(-20%)

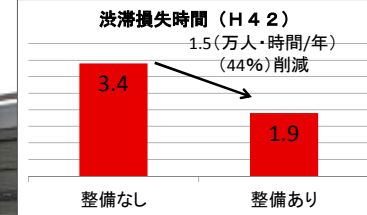
➡ **総便益(B)が総費用(C)を上回っている**

13

② 事業の投資効果 事業の効果や必要性を評価するための指標(1/5)

【円滑なモビリティの確保】

中筋温品線(1工区)始点付近の
渋滞の様子



14

② 事業の投資効果 事業の効果や必要性を評価するための指標(2/5)

【都市の再生、国土・地域ネットワークの構築】



15

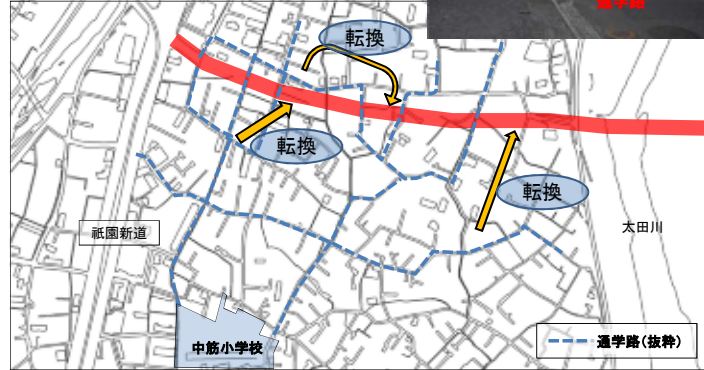
② 事業の投資効果 事業の効果や必要性を評価するための指標(3/5)

【個性ある地域の形成】



16

② 事業の投資効果
事業の効果や必要性を評価
するための指標(4/5)
【安全な生活環境の確保】



② 事業の投資効果
事業の効果や必要性を評価するための指標(5/5)
【災害への備え】



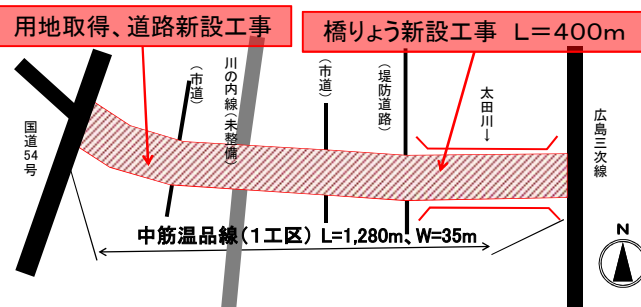
【地球環境の保全】

削減される自動車からのCO2(H42)	2,100t-CO2/年
CO2排出量削減便益	607.1万円/年

18

③ 事業の進捗状況 ④ 事業の進捗の見込み

【残事業の内容】 用地取得、道路新設工事、橋りょう新設工事



【事業進捗の見通し】

・暫定的な整備・供用を行いながら計画的な進捗を図る。

19

⑤ コスト縮減や代替案立案等の可能性

【コスト縮減の可能性】

- ・効率的な施行の計画
- ・建設副産物の発生抑制及び再生材利用
- ・橋りょう新設工事における構造や架設工法の検討等

20

⑤ コスト縮減や代替案立案等の可能性

【代替案立案等の可能性】

- ① 地区内の交通の円滑化や安全な生活環境を確保する路線
- ② 橋りょう整備による太田川の兩岸地区を結ぶ路線



地区住民の期待を受けながら、用地取得が進捗



現計画のもと、事業を進めていくことが適当

■ 対応方針(案)

対応方針(案) …… 事業継続

- ① 環状型道路の一部を構成する路線
- ② 地区内の交通の円滑化や安全な生活環境を確保する路線
- ③ 橋りょう整備により、太田川の兩岸地区を結び、地域分断を解消する路線



地区住民による早期整備の要望が強い



引き続き、事業を推進する

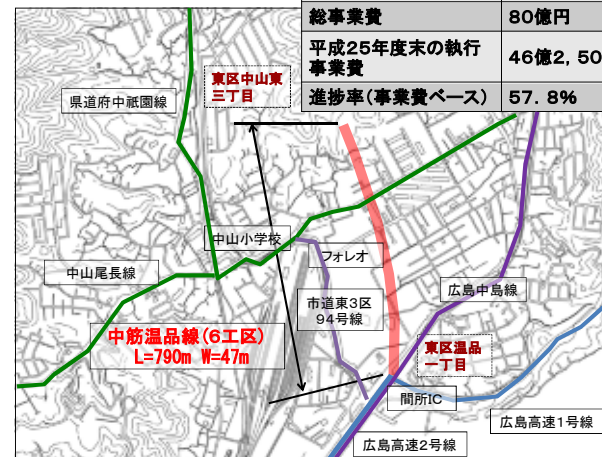
街路事業

中筋温品線(6工区)

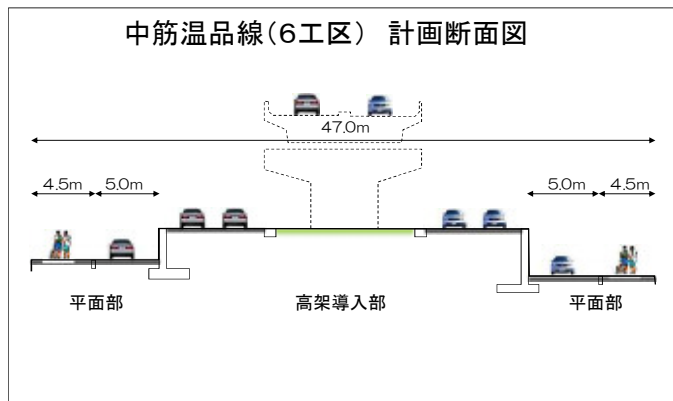
(道路交通局道路部街路課)

■ 事業の概要

予定事業期間	平成12年度～平成30年代前半
総事業費	80億円
平成25年度末の執行事業費	46億2,500万円
進捗率(事業費ベース)	57.8%



■事業の概要



25

■再評価の視点

26

① 事業を巡る社会情勢等の変化

【地域情勢の変化】

・周辺道路の交通需要の増加

- ①大規模商業施設の開店(平成21年11月)
- ②広島高速2号線(平成22年4月)開通



地区住民を中心とした早期整備の要望

27

② 事業の投資効果

■事業全体 費用便益比(B/C)

$$\text{総便益 B } 291.7\text{億円} \div \text{総費用 C } 106.8\text{億円} = \text{費用便益比 B/C } 2.7$$

■残事業 費用便益比(B/C)

$$\text{総便益 B } 291.7\text{億円} \div \text{総費用 C } 49.4\text{億円} = \text{費用便益比 B/C } 5.9$$

■感度分析(残事業に対して、各要因を変動させ分析)

- ・交通量変動 B/C=6.0(+10%)~5.6(-10%)
- ・事業費変動 B/C=5.4(+10%)~6.6(-10%)
- ・事業期間変動 B/C=5.5(+20%)~6.1(-20%)

総便益(B)が総費用(C)を上回っている

28